

第56回日本小児感染症学会

第56回学術集会レポート表彰式

研究委員会委員長

和田 泰三

第56回日本小児感染症学会総会・学術集会大会長

森内 浩幸

Young Investigator Award (YIA) は学術集会に応募した会員で、筆頭著者が翌年4月の時点で40歳未満であり、まだ本賞を受賞したことのない方から、優れた研究を行い将来性の高い3名を選ぶものです。岡田雅彦選考長および山田全毅選考長の下、研究委員会で事前審査した10名の中から、学術集会における発表と質疑を踏まえて、すべての理事、監事、代議員が審査員となり最終選考を行いました。3人の受賞者へは副賞として、ACPIDやAsian Society for Pediatric Research (ASPR)などの国際学会に参加し研究内容を発表するための補助費として、20万円を贈呈いたします。なお、今回は日本小児科学会へのPediatric Academic Societies (PAS)発表推薦演題を事前に提出する必要があり、委員会での審査で高得点だった演題を提出したところ、見事、PAS発表演題に選出されています。

本年度のYIA受賞者と演題名は以下の通りです。

岡部 永生先生* 福島県立医科大学小児科学講座

「RSウイルスの経時的なF蛋白アミノ酸変異とエピトープ特異抗体への感受性変化」

福田 裕也先生 札幌医科大学医学部小児科学講座

「ロタウイルスワクチン導入を経た50年間の世界のWa-likeロタウイルス分子進化の概要：1974-2020」

岩田 健一先生 名古屋大学大学院医学系研究科小児科学

「小児における肝移植後サイトメガロウイルス血症に対するガンシクロビル投与とNUDT15遺伝子多型の関連」

*PAS学術集会（2025年4月24～28日、ホノルル）での日本小児科学会推薦発表者へ選出



YIA受賞者3名

左から岩田 健一先生、福田 裕也先生、岡部 永生先生、森内 浩幸理事長です。



ポスター賞受賞の4名

左から小川 英輝先生の代理で伊藤 健太先生、樋泉 道子先生、清水 博之先生、新谷 紀享先生、森内 浩幸理事長です。

次に、ポスター賞の表彰を行いました。こちらはYIAとは異なって年齢制限はなく、ポスターセッションの活性化や、YIAとは異なった観点から小児感染症研究に勤しむ会員を鼓舞することを目的としています。選出方法は以下の通りです。まず学術集会ポスター発表に登録された48演題を対象とし、橋本浩一選考長および長森恒久選考長の下、委員会で14題の候補演題を事前に選出しました。学術集会初日、すべての理事、監事、代議員が審査員となって、実際にポスターを閲覧して投票を行い、集計後得点の高かった以下の5名を選出しました。

以下、本年度のポスター賞の受賞者と演題名です。

新谷 紀享先生 札幌医科大学医学部小児科学講座

「北海道の地域間における小児ロタウイルス胃腸炎の遺伝子型多様性とワクチン有効性の検討」

清水 博之先生 藤沢市民病院臨床検査科

「妊娠期梅毒患者および出生児の非トレポネーマ脂質抗体（RPR）の比較」

大竹 正悟先生 国立感染症研究所薬剤耐性研究センター

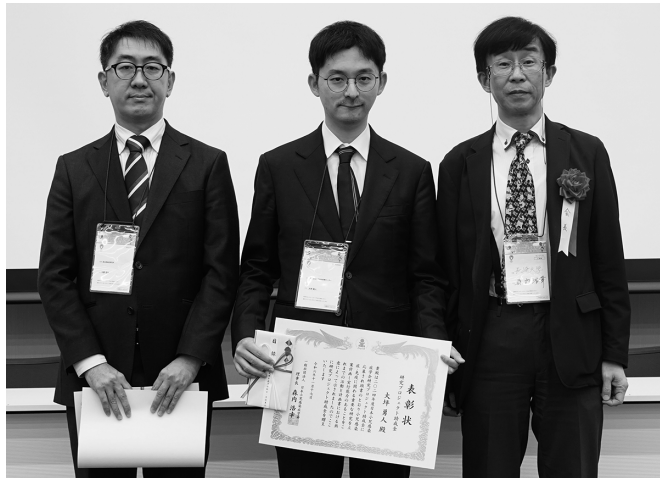
「小児侵襲性GBS感染症の臨床情報および分離株の疫学解析：小児におけるB群連鎖球菌感染症ナショナルサーベイランス中間報告」

樋泉 道子先生 長崎大学熱帯医学研究所小児感染症学分野

「ベトナムにおいて異なる肺炎球菌結合型ワクチンスケジュールの導入が小児肺炎やワクチン型肺炎球菌関連肺炎の発生に及ぼす影響」

小川英輝先生 あいち小児保健医療総合センター総合診療科

「Culture negative sepsis に対する抗菌薬投与の実態調査 一前方視的症例集積研究一」



研究プロジェクト助成金受賞者2名

左から中野 哲志先生，大坪 勇人先生，森内 浩幸理事長です。

続いて，研究プロジェクト助成金の説明をいたします。これは小児感染症・免疫にかかわる研究を奨励し援助することを目的に，平成18年度から開始しました。当初は研究奨励賞という名称でしたが，平成23年より名称変更しております。特に研究費の捻出が困難な一般病院や開業医の先生方の応募を強く歓迎し募集しているもので，受賞者には40万円以下の研究助成金が授与されます。義務として奨励金使途およびそれによる研究成果の概要を，学会誌において報告し，また研究成果は本学会学術集会においても発表していただきます。

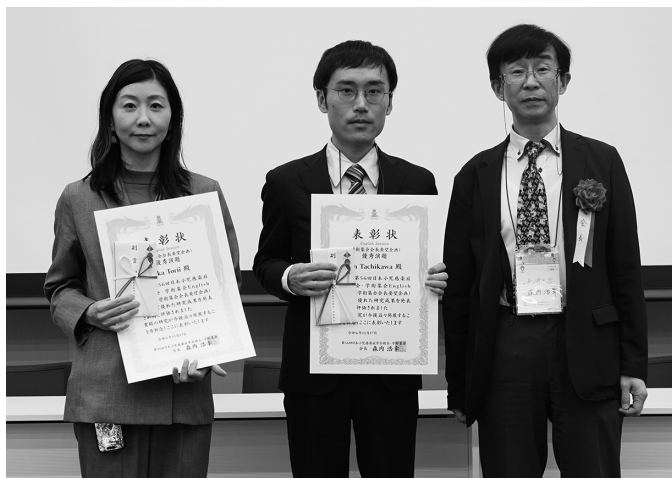
田中敏博選考長および荒木かほる選考長の下，厳正な審査を行い2名選出しました。本年の研究プロジェクト助成金受賞者と演題名は以下の通りです。

大坪 勇人先生 東京都立小児総合医療センター感染症科・免疫科

「ESBL産生腸内細菌目細菌による菌血症の標的治療としてのセフメタゾールの有用性検討」

中野 哲志先生 国立感染症研究所薬剤耐性研究センター

「高病原性IV型B群連鎖球菌の分子疫学解析と組み換え体を用いた病原性解析」



English Session 受賞者 2 名

左から鳥居 ゆか先生，太刀川 潤先生，森内 浩幸大会長です。

最後に、English Session の表彰について説明いたします。本年度の学術集会でも過去 2 回に引き続き会長要望企画として English Session が開催されました。一般演題として応募され、英語での発表が可能であるとの意思を示された演題のなかから 16 題を選出し、英文抄録提出および 3 つのセッションに分かれて英語での発表・質疑応答を行っていただきました。各 Session の演題のなかで最も評価の高かった演題（3 演題）を座長の先生に選んでいただき、優秀演題として表彰いたしました。

● English Session 1

Speaker: Dr.Yuka Torii

Affiliation: Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine

Title: MicroRNA Expression in Urinary Exosomes in Congenital Cytomegalovirus Infection

● English Session 2

Speaker: Dr.Yuta Aizawa

Affiliation: Department of Pediatrics, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences/Pediatric COVID-19 Vaccine Research Group in Niigata Effectiveness of the Original BNT162b2 Messenger

Title: RNA Vaccine Against Symptomatic SARS-CoV-2 Omicron Infection in Children Aged 5 to 11 Years in Japan

● English Session 3

Speaker: Dr.Jun Tachikawa

Affiliation: Department of Pediatrics, Niigata University School of Medicine

Title: Real-time PCR Threshold Cycle Values in Nasopharyngeal Swabs and Severity of Acute Lower Respiratory Infection in Hospitalized Children